

2015年7月12日 主日礼拝 <洗礼式>

司 会 ①梅津兄 ②宮川兄 ③森下兄

奏 楽

祈 禱 ①三浦兄 ②新田兄

賛 美 聖歌483番「我は主にありて楽し」

(み手の中ですべては変わる)(イエスあなたの名は)

使徒信条

聖 書 ① エペソ人への手紙2章8～10節 (P302)

②③ルカによる福音書7章11～17節 (P96)

音 楽 ① 感謝組

②③岸義紘先生(サクソ演奏)

証 詞 ① 鷺沢結実姉(青年会)

メッセージ ① 「神様からの贈り物」 佐々木智行伝道師

②③「もう泣かなくてもよいのです」 岸義紘先生

賛 美 「明日はどんな日か」 (献金)

頌 栄 「わが魂いざたたえよ！」 アーメン

祝 禱 大川従道牧師

「主はその母親を見てかわいそうに思い、  
『泣かなくてもよい』と言われた。」  
(ルカ七の十三・新改訳)

【大和ニュース】

- \* 全世界巡回伝道者「岸義紘先生」を心から歓迎し、祝福を祈ります。
- ・ 受洗おめでとう！①高橋昌和兄(ヨシア会)②結城房恵姉(サラの会)③松井愛姉(東京)
- ・ 本日、入門講座Ⅱ、SS主任会、YYタイム(12:30森)、J. Plus等あり。
- \* 今年も半年守られたことを感謝し、「上半期感謝献金」をお捧げしましょう。  
これは、伝道牧会スタッフ、宣教師とその家族の為に用いられます。袋は受付。
- ・ 今週も祈禱会を大切に！説教は菅原副牧師。水曜夜と木曜朝。
- ・ 準備祈禱会は、金曜夜9時～10時半。特別講師はトーチトリニティのアン・ヨハン神学生。
- \* 本日の東京カルバリーは、ハイアットの「白鳳の間」と「吉野」。5時。来週は音楽礼拝。独唱はベ・チエチヨル氏。証人は輪嶋兄。説教は大川牧師。整理券必要。

## 石の枕

その昔、今の滋賀県のあたりの近江の国には「近江商人」と呼ばれる人たちがいました。その人たちは、商売をする上での理念として、つねに「三方よし」ということを考えていたことは有名であります。それは、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方がよいことです。

なぜこのような考え方をするようになったかという、近江商人たちは自分たちの国で商売するだけでなく、広く他の国へも出かけて、いろいろな国の特産物を行商していました。でも普通は、よその国の人に来て信用されず、商売することはできなかったのです。

そこで近江商人たちは、他国の人に信頼してもらうために、自分たちのトクばかりではなく、商いの相手もトクをして、さらに商いをさせてもらう地域の人たちにも喜んでもらえることを考えました。

それがやがて「三方よし」という考え方となって、定着していったのです。

ここまでのことは、知っている人も多いと思いますが、斉藤一人氏は、さらに「四方よし」を考えました。

たとえば新商品を考えるときは、お客さんのためになって、それで世間もよろこんでくれて、自分たちもしっかりと利益を出す。そして、それらプラス、天も喜んでくださることを考えたのです。

これだけ多くのエネルギーを得られる方法は、他には絶対にありません、とは斉藤氏のことばです。

\* 私は東京カルバリーチャペルを始める前から考えていたことがあります。地方教会では、折角受洗に導いても、みな都会に出て行き、牧師は寂しく、教会は瘦せてしまいます。(牧師がふとる場合もありますが??)

そこでアイデアですが、東京に出て来た信徒さんの献金を出身教会に送り牧師とその群を励ますという作戦です。東京で伝道することは、会堂づくりで命を削るほどの苦労ですが、地方教会と共に祝福にあずかるのは、天のお父さまが喜ばれることです。ロマ12の2にあるように「何が神の御旨か、何が善であって、神に喜ばれること」かを、わきまえ知り、実践するなら「四方よし」の恵みにあずかること間違いなしですね。アーメン。

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう!  
Aコース:使徒行伝17章~20章 Bコース:詩篇7篇~27篇